

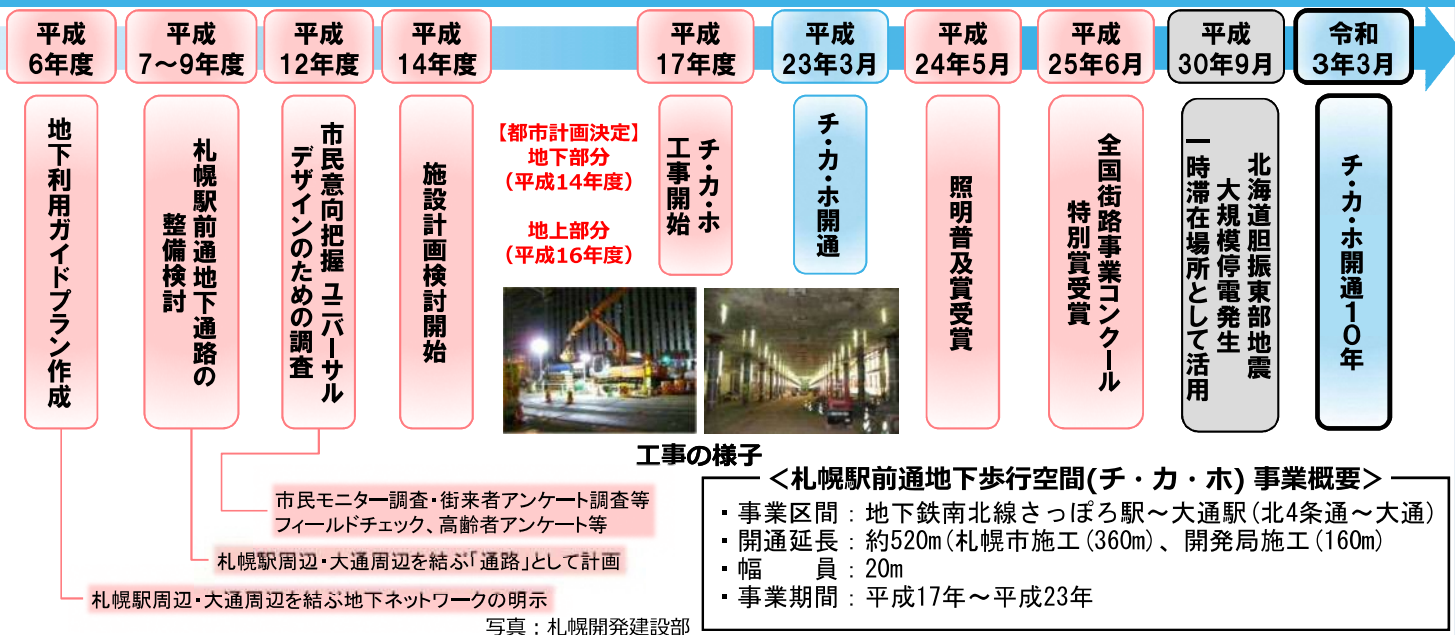
札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)開通10周年

～チ・カ・ホ開通までの経緯と現在までの歩み～

チ・カ・ホ 札幌駅前通地下歩行空間

- 札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)は、平成23年3月12日に開通してから今年で10周年を迎えました。札幌駅周辺地区と大通地区をつなぎ、都心商業圏の回遊性を高め、四季を通じて安全で快適な歩行空間を確保することにより、多くの方々に利用され親しまれる「空間」となりました。
- チ・カ・ホは、利用者の利便性向上、にぎわい空間の創出などが評価され、全国街路事業コンクール特別賞や照明普及賞を受賞しました。また、北海道胆振東部地震の際には、「一時滞在施設」としても活用されるなど、多様な機能を有しており、北海道の中心都市である札幌の「まちの魅力」が向上しています。

チ・カ・ホ開通までの経緯と現在までの歩み



＜札幌都心部位置図＞



＜平成23年度「照明普及賞」受賞＞



その年に竣工した優れた照明施設を表彰
(主催：一般社団法人照明学会)

写真：札幌開発建設部

＜第25回「全国街路事業コンクール特別賞」受賞＞



地域経済の発展と住民福祉の向上を図るため、街路整備に優れた業績をあげている地方公共団体等を表彰
(主催：全国街路事業促進協議会、後援：国土交通省)

写真：札幌市WEBサイト

札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)開通10周年 ～まちの魅力が向上しています。これからもますます便利に！～

チ・カ・ホ 札幌駅前通地下歩行空間



【チ・カ・ホを利用する歩行者】



【イベント広場でのコンサート】



【札幌駅前通の様子】

- 開通後、チ・カ・ホは通路から広場として多種多様に使われることでにぎわいが創出されており、移動の質の向上により様々な人々に快適に利用されています。また、ビルの建て替えによる企業集積に伴い地価が上昇し、様々な機能強化により「まちの魅力」が向上しています。
- 今後は防災機能の強化、北海道新幹線札幌延伸による交通結節点機能の強化も予定されており、ますます便利になります。

開通前



【雨天時の札幌駅前通】



【ツルツル路面での転倒】

資料：札幌開発建設部

開通後

将来



まちの魅力向上

地下歩行機能



【チ・カ・ホを利用する歩行者】

地上・地下あわせて
1日7.1万人が通行
調査日：F29の平日1日
(9時から20時までの11時間合計)

地下滞留機能



週に6日以上
イベント実施

【利用者でにぎわう広場】

企業が集積



【ビル建て替えにより街並みが一変した札幌駅前通】

地価が2.2倍に上昇

交通結節点機能の強化

北海道新幹線
2030年度末
開業予定



【札幌駅交通ターミナルの検討】

移動の質の向上



円滑な移動

デジタルサイネージ

【気軽に利用できる環境】

将来に備えた
防災機能の強化

延べ350人が
一時滞在

非常用の
発電機を設置



※設置イメージ

【災害時の活用と設備追加】

ブラックアウト
から得た知見

地下でつながる札幌都心 ～札幌の都心をひとつに～



チ・カ・ホにより札幌都心部が一体となり、 “にぎわい”が創出されています

- チ・カ・ホの開通により、札幌都心部を広く回遊できるようになったことで、都心部の通行量が増加。イベント開催により“にぎわい”が創出されています。
- 札幌都心部への来訪頻度が増加し、消費金額が増加しています。

地下空間の拡充で札幌都心部が一体となりました

チ・カ・ホでは多くの人出により “にぎわい”が創出されています

＜札幌駅前通の地上・地下の歩行者通行量＞

開通後9年で約2.4倍の
9万人が通行

コロナ禍でも
7万人が通行

年度	地下 (万人/日)	地上 (万人/日)
H22 (開通前)	3.7	3.0
H23 (開通直後)	5.4	1.1
H25 (3年後)	5.2	2.6
H27 (5年後)	5.5	3.0
R1 (9年経過)	6.0	3.0
R2 (10年後)	5.1	2.0

調査箇所
地上：大同生命ビル西側、日本生命ビル東側の合計値
地下：大通駅出入口、歩行空間中央、札幌駅出入口の平均値

＜札幌市都心部の商業圏＞

札幌駅前通地下歩行空間 (チ・カ・ホ)

年間を通じてにぎわい創出 (6日以上/週でイベント実施)

資料：札幌駅前通まちづくり(株)

都心部への来訪が増えており 消費金額も増加しています

＜札幌都心部への来訪頻度の変化＞

チ・カ・ホ開通以降来訪が増えたと回答した市民が約半数まで増加

年度	開通以降増加 (%)	変わらない (%)	開通以降減少 (%)
H23年度 (n=1,018)	27.2%	69.7%	3.0%
H25年度 (n=615)	37.6%	60.3%	2.1%
H27年度 (n=406)	42.9%	55.9%	1.2%
R2年度 (n=391)	46.3%	46.5%	7.2%

＜札幌都心部での消費金額の変化＞

チ・カ・ホ開通以降消費金額が増えたと回答した市民が増加

年度	開通以降増加 (%)	変わらない (%)	開通以降減少 (%)
H23年度 (n=1,012)	17.2%	79.8%	3.0%
H25年度 (n=615)	26.7%	69.7%	3.6%
H27年度 (n=401)	36.7%	60.0%	3.4%
R2年度 (n=388)	31.9%	60.5%	7.6%

資料：札幌開発建設部調査(H23・H25・H27) 札幌駅前通まちづくり(株)アンケート調査(R2)

＜大通・すすきの地区の地上・地下の通行量＞

大通・すすきの地区は増加傾向

年度	地下 (万人/日)	地上 (万人/日)
H22 (開通前)	1.3	1.0
H23 (開通直後)	1.6	0.9
H25 (3年後)	1.4	1.1
H27 (5年後)	1.6	1.1
R1 (9年経過)	1.6	1.3
R2 (10年後)	1.0	0.8

調査箇所
地上：大通公園以南(大通～南4条、西1丁目～西7丁目)の40地点の平均値
地下：オーロラタウン、ポールタウン、大通駅コンコースに該当する28地点の平均値

資料：札幌市都心商店街通行量調査 ……9時から20時までの11時間合計 (調査主体 札幌市商店街振興組合連合会) [調査日] H22.9～R2.9の平日1日

＜都心部の地下鉄乗車人員＞

地下鉄乗車人員は増加

年度	乗車人員 (万人/日)
H22 (開通前)	17.5
H23 (開通直後)	16.7
H25 (3年後)	17.6
H27 (5年後)	17.9
H30 (8年経過)	19.1

資料：札幌の都市交通データブック

札幌都心部の価値向上 ～札幌のシンボルへ～

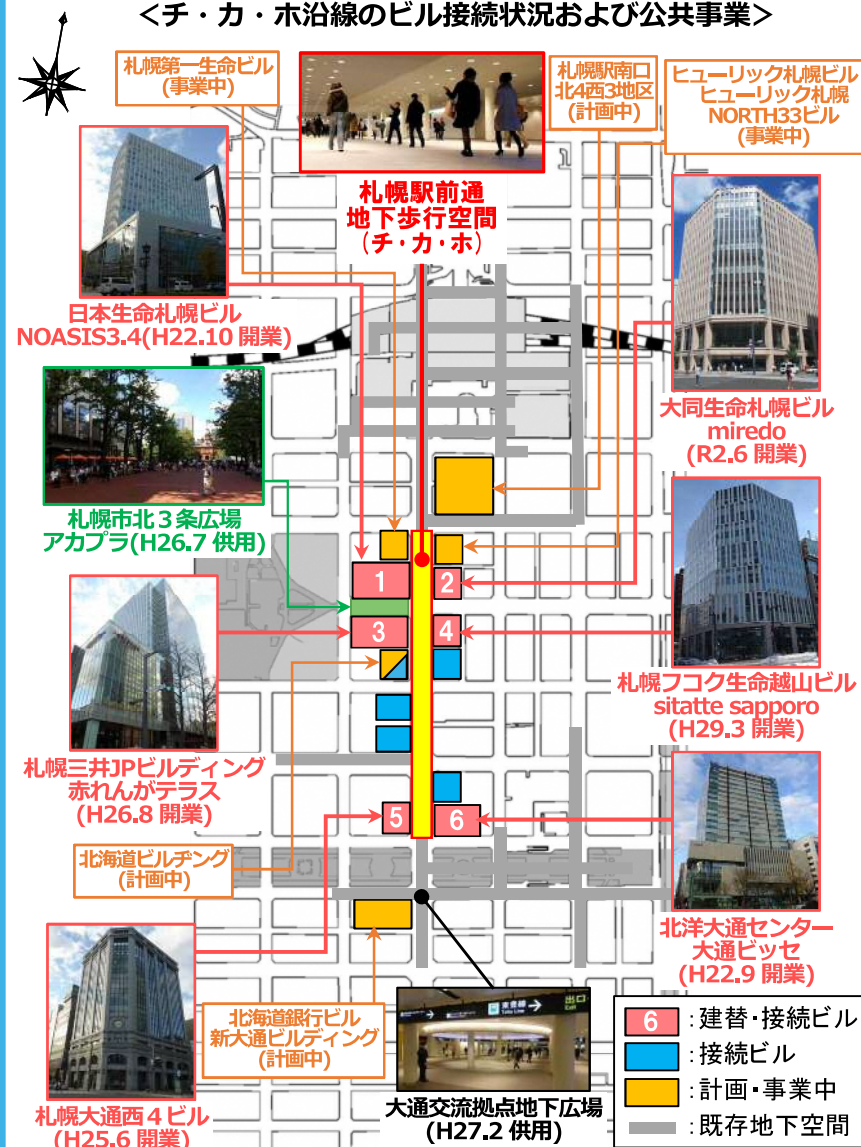


沿線ビルの建て替え・接続により 札幌都心部の価値が向上

■千・カ・ホの開通と同時に多くのビルが接続されるとともに、民間投資によりビルが建て替えられ、シンボリックな景観が形成されています。建て替えによる企業の集積により、札幌駅前通の地価が開通前の2.2倍に上昇し、札幌都心部の価値が向上しています。

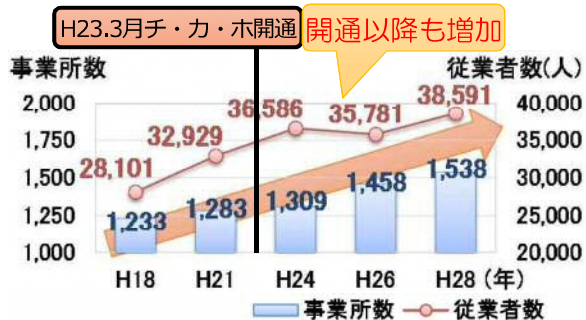
民間投資によるビルの建て替え・接続が促進

<千・カ・ホ沿線のビル接続状況および公共事業>

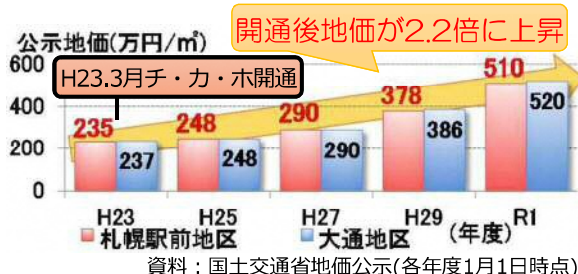


建て替えによる企業の集積により、都心部の地価が上昇

<札幌都心部の事業所数・従業員数>



<札幌駅前通の公示地価>



声 千・カ・ホ直結のビル開発事業者にお聞きしました

○ビル建設や地下空間等への社会資本整備により都心部の開発が進むことで『ビルの価値向上』となり、他ビルの開発が追従することによって都心部全体の『まちの価値向上』に繋がっています。

R2.12調査

移動の質の向上 ～バリアフリーで快適な歩行空間に～



チ・カ・ホは利用者の円滑な移動を支えています

- チ・カ・ホの開通による安全・快適な地下歩行空間の広がりにより、身体に障がいを持つ方やベビーカーや車いすを利用する方などの行動範囲拡大、観光客等の円滑な移動を支えています。
- また、デジタルサイネージが設置されたことにより、利用者にタイムリーな情報提供が可能となっています。

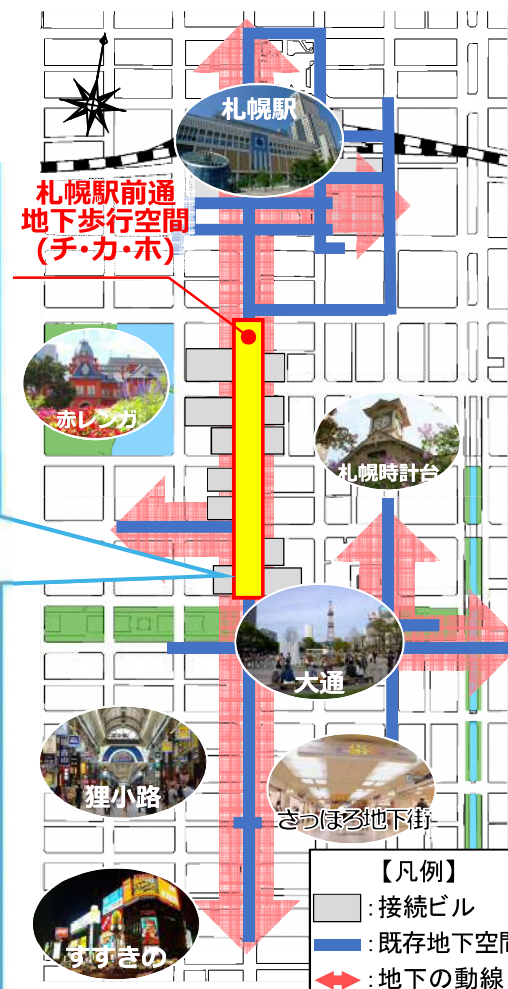
チ・カ・ホ開通で安全・快適な地下歩行空間に

都心部の移動が快適に

<札幌市都心部の地下空間>

<主なチ・カ・ホ直結施設>

多様な施設が
バリアフリーで接続



<チ・カ・ホ開通による札幌都心部での変化>

[チ・カ・ホ開通前の冬期地上部]



多くの人が
都心部の
移動が快適に
なったと回答

0% 25% 50% 75% 100%

都心部の移動が快適になった **79.1%**

にぎわい・活気が生まれた **41.1%**

札幌都心部の魅力が向上した **40.6%**

経済活動が活発化した、
チカホ周辺への来訪頻度が増加 **37.0%**

とくに変わらない **2.8%**

資料：札幌駅前通まちづくり(株) アンケート調査(R2)

新しいサービス

多言語でタイムリーな
観光案内が可能



声 札幌駅前通 まちづくり(株)に お聞きしました

- 多言語表示のデジタルサイネージによる観光案内板で、タイムリーな情報更新をできるようになりました。
- 災害時も非常用電源を使用して、滞留する観光客等に情報提供します。

R2.11調査

資料：ようこそSAPPORO観光写真ライブラリー
札幌市土木部道路課、札幌開発建設部

災害時における活用 ～北海道胆振東部地震による知見～



災害に備える千・カ・ホで、安全に暮らせるまちに

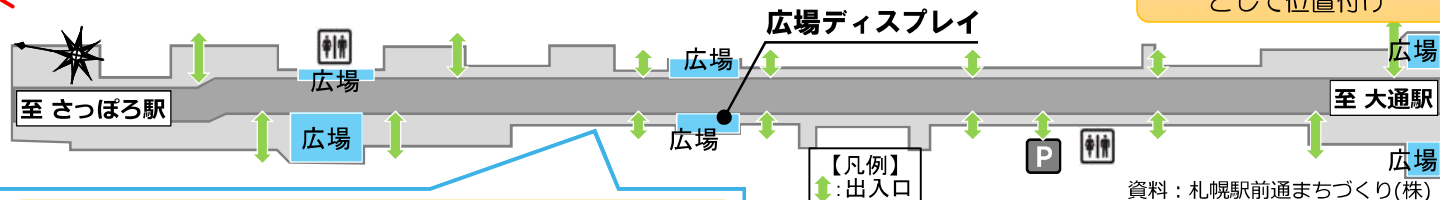
- 千・カ・ホは災害発生時に帰宅困難者を一時的に受け入れる「一時滞在施設」に位置付けられています。
- 平成30年9月に発生した北海道胆振東部地震では、北海道全域で大規模停電が発生し、札幌都心部においても交通機関がマヒし、多くの帰宅困難者が千・カ・ホに避難しました。
- 今後も更なる防災機能強化を図るため、停電時も利用できるように「非常用発電機」の整備を進めています。

「一時滞在施設」への位置付けと災害時の活用

<千・カ・ホの「一時滞在施設」への位置付けについて>

平成23年の東日本大震災の教訓を踏まえ、平成24年7月に「都市再生特別措置法」が改正され、「都市再生安全確保計画制度」が創設。平成26年に札幌都心地域都市再生緊急整備協議会(国・札幌市・関係事業者等にて構成)において、「札幌駅・大通駅周辺地区都市安全確保計画」を策定し、千・カ・ホは「一時滞在施設」に位置付けられています。

札幌駅前通地下歩行空間(千・カ・ホ) 延長 L=520m 平成26年「一時滞在施設」として位置付け



平成30年9月に発生した北海道胆振東部地震では都心部にあふれた帰宅困難者を一時的に受入
一時滞在施設として防災面での有用性を確認



開放3日間で
**延べ350人の
帰宅困難者が一時滞在**

多くの帰宅困難者が
通信機器等の**充電に利用**

資料：札幌駅前通まちづくり(株)

<千・カ・ホにおける帰宅困難者・旅行者への対応>

H26.3		「札幌駅・大通駅周辺地区都市再生安全確保計画」を策定。
H30.3		札幌都心地域帰宅困難者対策ガイドライン(札幌市都心地域帰宅困難者等対策協議会にて策定)
【北海道胆振東部地震】	H30.9.6	3:07 北海道胆振東部地震発生
		20:45 『一時滞在施設』として直近出入口を開放
		21:30 全入口を開放し滞在場所へ誘導 (宿泊者数：約70名) ※3日間で (宿泊者数：約250名) 計約350名 (宿泊者数：約30名)
H30.9.7		
H30.9.8		
H30.9.9	11:00	『一時滞在施設』としての利用終了
R2.3		札幌駅前通地区防災協議会において【札幌駅前通地区帰宅困難者対策の手引き】を制定

災害に備えた取り組みの追加

広場ディスプレイに
災害情報を表示できるようにしました



停電時も利用できるよう
非常用の発電機を設置(予定)



<札幌駅前通地区 防災協議会>

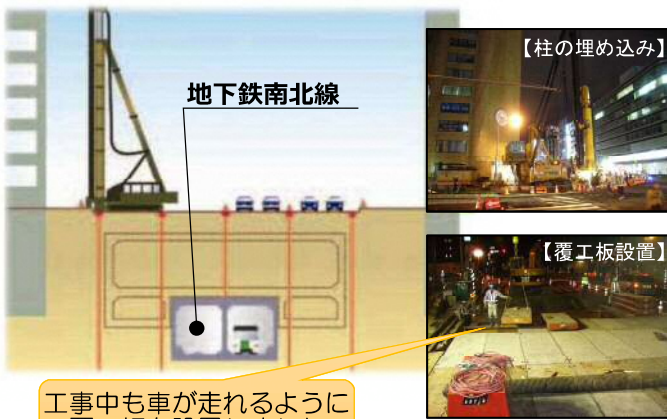
北海道胆振東部地震を契機として、防災協議会において【札幌駅前通地区 帰宅困難者対策の手引き】を作成。事業者や市民・行政と協力して地区の防災力を高め、適切な対応を行い、安全な地域づくりを目指しています。



・札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)は、平成17年から工事に着手し、札幌市のメインストリートである札幌駅前通の動きを止めることなく、また大動脈である地下鉄南北線にも影響を及ぼすことなく、皆様のご協力もあり平成23年3月に開通いたしました。

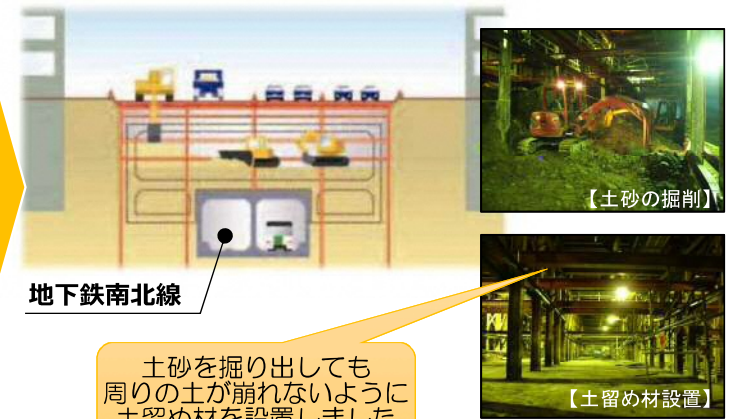
①地下歩行空間を作る準備を行いました

- 地中に穴を開け、柱を埋め込みました。
- 柱の上(路面)に、覆工板(鋼製の蓋)を設置しました。



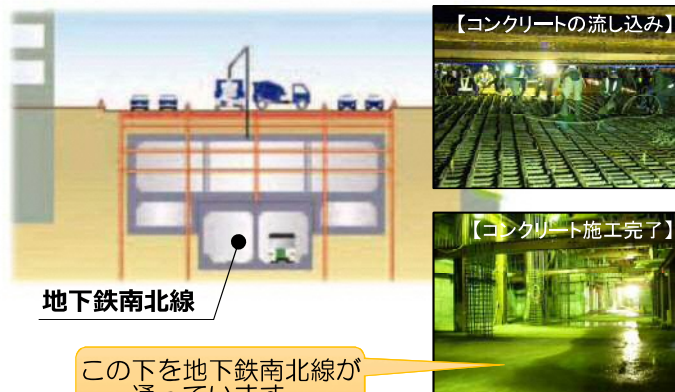
②土砂を掘りました

- 柱と柱の間に土留め材(土砂崩れを防ぐ板)を設置しました。
- 地下通路を作る場所の土砂を掘りました。



③地下歩行空間を作りました

- 鉄筋を組み立て、コンクリートを流し込み、地下歩行空間の構造物を作りました。
- その後、機械設備や電気設備などを設置しました。



④地上を元に戻しました

- 掘った土砂を元に戻しました。
- 道路を舗装し、街路樹の植樹や街灯等を設置しました。

